



2026 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ

ROUND 1

MOTEGI 2&4 RACE



- 栃木県
- モビリティリゾートもてぎ
- 1周=4.801km

- クラス / JSB1000
- マシン / BMW M1000RR
- タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 44 関口 太郎

予選	12 番手 (タイム: 1分49秒961)	4月4日(土) 天候: 曇りのち雨 コース: ドライ
		決勝



三明電気工事



攻めの走りからの転倒も再スタートし14位でポイント獲得

2026年の全日本ロードレース選手権が、4月4日（土）・5日（日）に栃木県・モビリティリゾートもてぎで開催された。今年も4輪のスーパーフォーミュラとの2&4レースとして開催されたが、昨年より2週間早い日程となり、気温や新しく舗装された路面など、コンディションを見極めながらの走行となった。



今シーズンはマシンを最新モデルのBMW M1000RRにスイッチ。関口は開幕に向けて早い段階から準備を進めてきた。3月に入ってからは、もてぎのスポーツ走行で動態確認を行い、開幕前週に実施された事前テスト「PRE-TEST "Round ZERO"」で本格的に走り込みを行った。事前テストは2日間、それぞれ50分の走行が2本というスケジュールで、初日はドライ、2日目はウエットと異なるコンディションを経験。いずれも好感触を得ていた。



レースウィーク初日は快晴となったが、1本目の走行は8時25分開始と早く、気温も低かったため慎重に走行を開始。2本目には気温も上がり、1分49秒台に突入し、1分49秒715で12番手につけた。



土曜日の公式予選は、10時40分から40分間で争われた。天気予報では雨の可能性があり、実際に朝から小雨がぱらつく場面もあったが、セッションはドライコンディションでスタート。チームはこれまで通りの戦略でユーズドタイヤでコースインし、終盤にニュータイヤを投入する予定だった。今シーズンから電子制御のセットアップを加納メカニックが担当し、ニューBMW M1000RRの理解を深めながら着実にセットを進めていった。予選ではユーズドタイヤで1分49秒961を記録。その後、雨が降り出したためニュータイヤは使用せず、セットアップを継続。結果は12番手となり、4列目から決勝に臨むことになった。



日曜日は曇り空となり、朝のウォームアップ走行は前日の雨の影響でウエットコンディション。路面は乾きつつあったが、ウエットでの確認を優先してコースイン。フィーリングはよく、4番手タイムを記録し、プライベーターながら上位に名を連ねた。



決勝はほぼドライコンディションとなったものの、所々にウエットパッチが残る難しい状況。特に2カ所のアンダーブリッジ下は濡れており注意が必要だった。

20周で争われた決勝。スタートは悪くなかったが、同じM1000RRを駆る星野選手に先行され、オープニングラップは11番手。3周目に星野選手をかわすとペースを上げ、前方集団を追走。その差を徐々に詰めていったが、レース



折り返しを過ぎた12周目、V字コーナーで痛恨の転倒。すぐに再スタートし16番手で戦列復帰すると、1台をかわしてポジションを回復する。終盤はペース維持に苦しみ2台に先行を許したものの、前方での転倒もあり14位でフィニッシュ。貴重な2ポイントを獲得した。

まずは、2026年シーズンも開幕戦を迎えられたことに対し、支えてくださっているスポンサー、ファンの皆さまに感謝申し上げます。決勝は転倒してしまい悔いが残りますが、その中でもポイントを獲得できましたし、ニューBMW M1000RRの理解も進んだので、よかった部分もありました。ただ、多くの方が応援に駆けつけてくださった中で、いいレースをお見せできなかったことは心残りです。気持ちを切り替えて、次戦SUGOIは2レース制となるので、上位を目指して頑張ります。2026年シーズンも応援よろしく願っています。

関口 太郎

